

床屋発祥之地



鎌倉時代の中期、当時亀山天皇に仕えていた京都御所の武士藤原基晴がある事件の責任をとって職を辞し、長門国下関に下りました。基晴親子は、其の頃下関で髪結をしていた新羅人からその技術を学び、往来の武士を客とした髪結所を開設しました。

この髪結所に、床の間があったことから、いつしか床の間のある店→床場→床屋という屋号で呼ばれるようになったそうです。このことから、床屋という言葉は、下関が発祥の地となり全国に広まっていきました。

この石碑は、平成7年、当時下関理容美容専修学校の小野孝策理事長の調査、研究の成果により設置されました。